第１４回市民自治推進委員会　産業躍動部会会議録

（敬称略）

◆ 開催日時：平成３０年７月３日（火）　１８：００～

◆ 開催場所：アーニス２階会議室

◆ 出席部会員：部会長　　川田　弘教

副部会長　吉田　武史

 　　　　　　　部会員　　近井　一夫

　　　　　　　　　　　　 安達　陽子

　　　　　　　　　　　　 森元　俊明（協働推進庁内委員会部会長）

【観光経済部次長】

◆ 欠席部会員：部会員　　鈴木　高士

　　　　　　　　　　　　 小川　昌宏

宮下　裕次

大澤　玲裕（協働推進庁内委員会副部会長）

【商工労政Ｇ総括主幹】

◆ 事務局：　　　　　 笠井　康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

塚崎　翔太【市民生活部市民協働グループ主任】

◆ 議題：今後の部会におけるテーマ及びスケジュールについて

【テーマ選定】

≪部会長≫

　今日は、前回皆様からいただいた意見を整理していきます。

　最初に事務局から説明いただき、のち皆さんのご意見をいただきます。

≪事務局≫

　前回皆様から出していただいた意見５つを、表にまとめています。それぞれを見て頂いた上で、どの事業を実施するか決めていただきたく思います。

　１つ目は、「ウオーキングの観光資源化」です。市内の歴史に詳しい荒川さんが、ウオーキングにも見識があるということなので、自然の中を歩くツアーを企画してそれを観光資源化し、観光関連産業の幅を広げて経済に貢献するという案です。

　２つ目は、「変わり種ザンギの開発」。登別閻魔やきそばに続くご当地グルメを開発し、新たな観光コンテンツとして実際に飲食店で提供していただき、経済活性化に繋げるものです。部会としてはルール作りや試作などに取り組み、また飲食店と意見交換をすることなどが考えられます。問題点としては、主な原材料の鶏肉が市内で供給されておらず、経済波及効果が飲食店だけとなり産業躍動という観点からの効果は限定的になることが懸念されます。また、原材料が地元にないということで、ブランド推進協議会の協力は得られにくいことが考えられます。

　３つ目は、「市内の各まつりへの誘客」。夏まつりで既に実施されていますが、温泉に来られている観光客を各お祭りに連れて行って楽しんでもらい、観光の幅を広げるものです。問題点としては、全国に似たようなお祭りがあるためターゲットは主に当日登別市に来ている外国人に限られることです。またお祭りの日程が限られているので、事業の規模は大きくならず、また試験運用の際に必ずバスを動員する必要があり、今年度に関しては予算面での制約がかかります。

　４つ目は、「札内町を市民の憩いの場に」。これは札内地区に新たな観光コンテンツを作って観光関連の産業に役立てるというものです。これは新しい事業をゼロから考えて、それを担ってくれる人を探して担ってもらうという、大きな規模の事業となります。またきちんと収益が得られるのか検証が必要ですが、専門知識がないこの部会で進めていくのは、困難が伴うことが予想されます。農業者が家畜伝染病の観点から札内の観光地化を積極的に望んでいないことも、憂慮される点です。

　５つ目は、「漁港の活用促進」です。漁港の活用を進めることで釣り人を呼び込み、観光関連産業に役立てるものです。これはターゲットが釣り人に限られること、事業実施による新たな需要の発生が多くはないことが予想されます。またマナーの悪い釣り客が増えると漁業者が困るというご意見もありました。

以上、すべてとてもいいアイデアで、全部進めていきたいところですが、今年度は予算的・時間的にかなり厳しい条件でのスタートとなっていますので、その制約の中では、「ウオーキングの観光資源化」が、予算をかけずに検証から旅行会社までの提案をすることができることから実現可能性が高く、かつ観光の需要喚起により産業躍動の効果が高いのではないかと思われます。

　ここまでで何かご不明点などはありますか。

≪部会員≫

　マイナス面の分析ばかりなのが残念です。もう少し前向きな分析があった方が良かったですね。

　ウオーキングについては、市民みんなに活動が広がり、ウオーキングのまちと言えるまでになれば良いと思います。

≪部会長≫

　全市的な規模での取り組みにしたいですね。

≪事務局≫

　今は全く活用されていませんが、登別にはウオーキングに使えそうな場所や、自然や歴史という社会教育の観点からも活用できるテーマがあります。そのことを、この部会を皮切りに市民に広げていき、いずれ全市的な取り組みにしていくと。その先鞭をつけるのが、今回出た案だと思います。

≪部会長≫

　事務局からの厳しい分析については、今年度における実現可能性という視点からの意見だったと思います。ウオーキング以外の案については、現状では実現に向けては課題がありますが、どれもいい意見なので、全く採用しないということではなく、今後ウオーキングと平行して実現に向けて協議していけたら良いと思います。

≪庁内委員≫

　今年度の予算は料理教室の分しかなく、費用がかからない取り組みをしなければいけないということであり、ウオーキング以外の案がだめということではありません。今後に向けての予算組みが必要となりますが、他の４つの案は大いに検討するべき事項です。すべて進めていきたいのですが、今できるものの中で最優先なのが、このウオーキングなのかなと思っています。

≪部会員≫

　どれか１つに絞り込んだ方が良いですね。

≪部会長≫

　限られた人数での活動なので１つに絞って、まずは産業躍動部会としての取り組みを周知する意味で実施するのが良いと思います。

ウオーキングをテーマとして取り組む可能性があったので、実は個人的に荒川さんに打診をして協力いただけるという内諾を得ています。これからコースを作って実際に歩いてみて、参加者の感想や意見を聞いてまとめ、できれば年度中に旅行会社に提案をしたいと思っています。

≪事務局≫

　ではテーマはウオーキングにすることとしてよろしいでしょうか。

―異議なし―

【ウオーキングツアーについて】

≪事務局≫

ではここからウオーキングについて議論をしていきます。

事業の目的は、これまで活用されていなかった山道、海沿いの道などを登別市の新たな魅力として捉えて、歴史や自然を紹介するウオーキングを商品化し、誘客や滞在型観光の推進を図ることです。

事業の概要は、荒川さんの協力を得ながら、市民向けと観光客向けのツアー、この２本を同時に進めていくことが考えられます。

市民向けツアーは、広報紙などで市民の中から参加者を集め、コースを歩いていただいて地域の魅力を再発見するとともに、アンケートを取って企画のブラッシュアップを図ります。

観光客向けツアーは、インターネットで首都圏から参加を募り、実際の運用を見据えて、ガイド料や保険料などの経費を見込んで料金を徴収して実施します。また、有料であっても人が集まるかも検証します。

コースについては既に荒川さんから提案いただいており、登別駅舎などに使われている石材、登別軟石をめぐるツアーということで、登別駅を発着点とした２ｋｍ程度のコースが示されています。

　料金の徴収に関しては、お金の収支を市の会計を通すことはできませんので、実行委員会を立ち上げて、その実行委員会の口座に参加料を入れ、その中から必要経費を支払う形を想定しています。

企画を実施する前に、予行演習として、市民自治推進委員会の全部会の委員に声をかけて、コースを歩いてみて、実際の運用に向けての案をいただいたり、問題点を探したりします。

　この企画は、地域に眠っている資源や人材の掘り起こしや活用を図るシェアリングエコノミーの試行も兼ねて実施したい意向です。

ツアー試行後、ゲートウェイセンターやモモンガくらぶなどの自然体験を提供する機関に情報を提供し、実際に運用していただき、観光資源の１つとして確立されることがひとつの目標です。

事業の効果としては、観光客の誘客や滞在型観光の推進、シェアリングエコノミーの推進による人的資源や未利用観光資源の活用促進、全市観光に向けた機運の醸成に繋がることが考えられます。また、ツアーの参加者との交流により交流人口・関係人口の拡大が期待されます。

　スケジュールについては、９月の中旬から下旬でこの部会の一部として、モニターツアーとアンケートを実施する案となっています。そのためには広報９月号で募集をかけなければならず、８月はじめには日程などを確定させて原稿を出さなければいけません。また、同時並行で東京への募集を開始して、ツアー実施までにリハーサルを行う必要があります。これらの実施方法等については次回の産業躍動部会で皆さんからの同意を頂いた上で実行に移したいと思っています。

モニターツアー実施後は、参加者からのアンケートを集計して、この企画をブラッシュアップするための改善案を作成します。そしてそれを元に旅行会社への提案内容を作成して、11月から12月にかけて旅行会社にこの企画案をお出しして、一旦ゴールということになることを目指しています。

ここまで企画内容とスケジュールについて、ご不明点などはありませんか。

≪部会長≫

　ツアー実施は９月の最終週だとありがたいです。

≪庁内委員≫

　コースの詳細や周知方法を含め、事業の詳細がはっきりしないこの段階でスケジュールを組んでしまうことに、少し不安を感じますね。

≪事務局≫

　荒川さんと委員の皆さんが一緒にコースの内容を決めるところから始めた方が良いでしょうか。

≪部会長≫

　コースの選定にもう少し時間を取ったほうがいいですね。

≪庁内委員≫

　今聞いた内容では、歴史と自然だけを見て歩いて終わりとなり、集客が見込めるのかなと思います。そこでピクニックウオーキングのように別の要素を入れる検討なども必要かと思います。

≪部会長≫

　次回の部会でコースの内容について話し合いましょう。コースを早めに決めて、我々も下見をしておく必要がありますね。

≪事務局≫

　では荒川さんと日程調整をして、近いうちにもう１度部会を開催します。

≪部会長≫

　ウオーキングにどうやって新たな価値を付けるかが、大事なところです。

≪部会員≫

　東京から来てお金を払って、ただ歩いて登別閻魔やきそばを食べるだけではつまらないですね。

≪部会長≫

　将来的に、市内の知識人を発掘して、コースを増やしてもいいですね。

≪部会員≫

　植物とかサケの遡上とか、季節によってもテーマはいっぱいありますよ。

　詳しい方がいらっしゃれば、市民力でのまちづくりになりますね。

≪部会長≫

　ガイドの募集をかけてみましょうか。

≪部会員≫

　ガイドがたくさんいれば何回でもツアーが組めるのではないでしょうか。

≪事務局≫

　今年度の案についてたくさん意見が出ましたが、来年度の事業についても少し触れておかなければいけません。ウオーキング以外の案も含め、いかがでしょう。

≪部会長≫

　ウオーキングの実証は、１回きりの結果だけでは判断ができないと思います。　来年度もテーマを変えながらウオーキングの取り組みを続け、精査していったらいいのではないかなと。

≪事務局≫

　来年度の予算のことを考えていたのですが、予算要求をしなければいけないのが今年の１０月、１１月ですので、それまでに来年度どういう経費が必要になるのかを検討しなければいけないのです。

≪庁内委員≫

　コース作りなどを通して意見を出し合ううちに、来年度にどういうものが必要になってくるのかというのが見えてくるので、それに合わせて予算要求すればいい。

≪部会員≫

　コースが決まれば、そこに看板がいる、標識が欲しいなどというものが出てくるかもしれない。

≪部会長≫

　歩く以外に、地域の特産品など食べ物を提供するポイントを作るようなことになれば、そういう経費も必要ですね。コースを作らないことには見えてきませんね。

≪事務局≫

　では次回、荒川さんに来ていただいてもう一度部会を開いて、そこでコースの内容を検討しましょう。

【料理教室について】

≪部会員≫

　料理教室について、もう講師の選定などに入りたいのですが、予算の１万円というのは、何に使えるのでしょうか。

≪事務局≫

　材料費として使えます。

≪部会員≫

　何をどのぐらい買ったか、記録しておかなくてはいけませんか？

≪事務局≫

　そういった内訳の付いた、業者からの請求書が必要です。請求書をもって市役所の予算から支払う必要がありますので。

≪部会員≫

　後日、買い物の詳しい方法について確認させてください。

【次回について】

●観光コンテンツ化を目指した、歴史や自然をめぐるウオーキングコースについて

日程：未定